

【キーワード：飼料用米 不耕起V溝直播 液肥 大豆 田畑輪換】

田畑輪換による飼料用米生産の確立

【庄内総合支庁酒田農業技術普及課】

◆課題名

田畑輪換による飼料用米生産の確立

◆活動の対象

JA 庄内みどり飼料用米栽培者(565名 共同乾燥施設利用)

◆実施年度

平成20～21年度

◆ねらい

多収安定栽培体系

穀物価格の高騰により飼料用米生産への期待、需要が高まっており、生産面積も拡大している。需要に応えるためには安定した供給が不可欠である。また、管内には約1,800haの大豆があるが、連作による地力の低下や雑草発生により収量・品質が低迷している。そこで飼料用米と大豆の輪作体系を構築し、飼料用米の多収と大豆の連作障害回避をねらう。

省力低コスト技術

飼料用米は、価格が主食用米の1/5程度と安価であるため、省力低コスト技術の導入が重要である。そこで、管内で取り組みが広がってきている不耕起V溝直播栽培の省力低コスト実証を行う。

耕畜連携

豚尿液肥の利用によるコスト低減や、稲わら収集による収入増の取り組みを通じて耕畜連携の取り組みを支援する。

◆活動の成果

飼料用米生産の推進

1. 飼料用米全体の収量目標 600kg/10a

H20 645kg/10a

H21 643kg/10a

省力低コスト実証

2. V溝直播実証ほ収量目標 650kg/10a

H20 542kg/10a

H21 706kg/10a

労働時間目標 6時間/10a

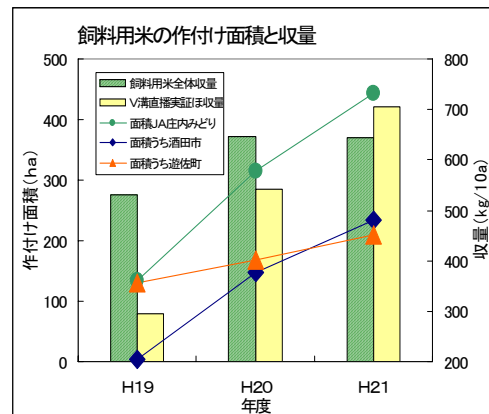
H20 6.4時間/10a

H21 5.3時間/10a

耕畜連携の推進

3. 目標 酒田市における取り組み1箇所以上

H21 4箇所



飼料用米の面積は増加し平均収量も安定している。
V溝直播の実証ほの収量も向上している。

◆活動の経過

チームによる連携

1. 酒田市、JA 庄内みどり、(株)平田牧場、JA 全農山形、県水田試験場をメンバーとしたプロジェクトチームで実証ほの運営状況やマニュアルの検討とともに、飼料用米の取り組み方、乾燥流通保管の問題点等の情報を共有し課題解決に役立てた。

V溝直播栽培実証

2. 不耕起V溝直播栽培実証ほを設置して収量の向上と労働時間の低減を目指した。平成20年は、苗立ち不足や施肥・除草剤散布の遅れなどから目標収量に到らなかったが、労働時間は最終目標である6時間に近い結果を得た。

平成21年は、除草剤の散布時期と剤の検討、施肥の量と時期の見直しをおこない目標以上の収量を上げることができた。労働時間は目標を上回る成績となった。

耕畜連携の推進

3. 平成21年はV溝実証ほにおいて豚尿液肥による追肥実演会を行なった。この取り組みを含め、豚尿液肥の取り組み2ヶ所(中平田、西荒瀬)、稲わら収集の取り組み2ヶ所(中平田、八幡)と取り組み箇所数は増加している。

栽培マニュアル

4. 実証ほの調査結果などを盛り込んだ飼料用米省力低コスト生産マニュアルについては、20年に作成し、21年は内容を検証して完成の予定である。

◆今後の展開
地域に根ざす

1. 今年度の実証ほ結果をもとに、マニュアルの改訂を行う。
2. 飼料用米先進地である管内の取り組みへの評価は高く、自給率向上への方策の1つと位置づけた国の飼料用米取り組み支援が始まる。しかし、景気低迷の中、畜肉の消費が落ちているなど不安要素もあり、今後とも省力、低コストへの取り組みや飼料用米、大豆の輪作体系の確立は重要である。大豆との輪作体系を進め、地域に根付く飼料用米生産に向けて取り組んでいく。



プロジェクトチーム会議現地検討会



移植と遜色ない成熟期の状況
左:V溝直播 飼料用米 右:移植 ひとめぼれ



稲わら収集の様子



豚尿液肥流し込みの様子

◆協力機関

酒田市、JA庄内みどり、(株)平田牧場、JA全農山形、水田農業試験場